

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和5年 3月 15日

事業所名 きりり庵 放課後等デイサービス

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○			
	2	職員の配置数は適切である	○			
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○			廊下に手すり、建物内には段差もなく、車椅子での安全に移動することができるように配慮できている。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		定期的に会議を行い、目標の設定や見直し、振り返りを行っている。	多くの職員が参画できなかったため、次年度は計画的に会議を行い、全職員で共有理解できるように努めていく。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			避難訓練時の様子を知りたいという要望に対しては、月1回発行する広報誌にて訓練の様子を掲載した。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		法人の研修以外にも、zoomなどを活用して積極的に全職員で研修に参加できた。	次年度はパート職員もともに学ぶ機会を設定していく。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○			面談なども積極的に行いながら、保護者のニーズを把握できたが、計画通りに作成できなかったケースもあった。次年度は計画に沿って作成できるように努めていく。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○			毎月子ども達のニーズをもとにチームで立案を行っている。季節感や行事、そうじ活動、集団で話し合ったり競争・協力できるようなプログラムも意識して計画を行っている。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○			少し遠出の外出や地域でのイベント(さつまいも祭り)なども積極的に参加している。室内の活動も継続しながら道具を使ったり、細かな工程を意図的に入れることで質を高めていけるように繋げている。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○			
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○			集団の雰囲気や音に敏感になるなど、その時その時で変化も多い。目的を支援者間で共有した上で、個別部屋を使用したり集団とは別のプログラムを設定して計画を行っている。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○			注意する点や個別につく支援員などを確認。危険予測を行いながらポイントになる部分は視覚的に分かりやすいように計画書に反映し、支援に入るようにしている。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○			子ども達の姿や葛藤・本当の思いなどをはせながら推測・共有し、今の成長を確認し合っている。またひやりとしたことや課題なども確認し合い、次回に活かせるようにしている。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○			記録の中に事実だけを記入し、推測されることなどは別欄に記入できるようにしている。モニタリングや行動分析するときなどに記録をもとに支援に反映している。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している		○		変化の様子がみられ、もう少しモニタリング時期の間隔を短くしてもよかったと思うケースがあった。記録や日々の姿から見立てを行う必要性があったため通常通りの見直し期間になったが、緊急性が高いケースについては積極的に見直ししていきたい。
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	○			創作活動は季節に合わせてテーマを設定し、様々な道具を使ったりと作品の質の高さの向上も意識している。地域交流では、枝豆狩り体験やイベントなどに参加している。余暇活動は音楽コンサートに出かけたり、買い物体験などを通して楽しみや社会性を身につけられるように取り組んでいる。	

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		管理者やサービス管理責任者とともに児童指導員もできるだけ参加できるように努めている。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○			
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		○	契約時にかかりつけ医などの連絡先を確認しているが、実際に連絡をとったことはない。	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている		○		法人内相談員とは比較的情報共有ができていたが、他法人の相談員とはFAXのみのやりとりが多く、共有できづらい状況である。できるだけ利用者の様子を実際に見てもらえるようお願いはしている。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している		○		法人内の作業所に移行する際は情報提供するケースもあったが、他法人へは情報提供したケースはほぼない。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○			法人内研修でケースレポートを用いて検討を行った際に発達支援員からの助言をもらい、支援の見立てや子どもの様子を発達保障の視点でみて支援の確認を行うことができた。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○		地域の図書館や公園などで関わる機会はあるが、共に同じ目的での活動はできていない。今後検討していきたい。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している		○		参加できる体制を整えていきたい。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		発達診断表をもとに、成長の段階からの言葉かけや行動などを伝えたり提案して共に理解できるように努めている。	
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○		できた時のほめ方など、そのケースに応じて臨機応変に支援方法を伝えることはある。		
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○			
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		性などの思春期・将来などの悩みを個別で聞き、事業所のできることを話したり、支援として取り組めることを伝えその後の様子なども伝えるようにしていた。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○		コロナ禍より保護者会が開催できていなかった。「開催してほしい」という声もあがってきているため、できる工夫をしていく。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		苦情については、受けたその日や次の日に面談を行うなど早急に真摯に対応することを心掛けている。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○			毎月広報誌を発行。活動や子ども達の様子が見えるようにたくさん写真を掲載したり、支援者の紹介や子ども1人にスポットを当てて紹介するなど工夫しながら、事業所の理解を広げていく。
	35	個人情報に十分注意している	○		書類での個人名の記載や個人情報を持ち出しなどには注意し管理している。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		意思疎通は1人ひとりによって方法は違うため、絵カードや実物の写真、平仮名の文字盤を使うなどして、その人に合った方法で意思疎通を図っている。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○		行事自体ができていないため、今後職員だけでなく研修会を行ったりイベントを計画し、開かれた事業所としてさらに展開できるように検討していきたい。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している		○		マニュアルはあるものの、保護者に周知することはできていなかった。今後周知することで安心して頂けるように、周知の方法を検討していきたい。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		避難訓練は年2回行っている。避難することだけでなく、事前学習として避難に関する〇×クイズを行い、子どもたちに真剣に考えてもらう機会を積み重ねてきた。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○			年に数回行っている。セルフチェックを行い、該当者が多かった項目についてはチーム間で話し合い、虐待に繋がらないように、抱えてこndenしまわぬように話し合うことを大切に取組んでいる。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○		集団の中で混乱したり音などに過剰になってしまう時は、クールダウン室を使用して気持ちをコントロールしていくなど記載し、保護者にも同意を得ている。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		契約時にかかりつけ医の連絡先を聞き取り、アレルギーなどの際の対応方法などを書面にて保管している。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		ヒヤリハットが起きた時には、チーム間で周知し今後起きないように共有している。	